

### 4-1-10-3 母性内科

#### 1. 概要、特色

母性内科も2年目を迎え、産科をはじめとする他科との連携がうまくいくようになったと思われる。また、産後の体調不良などで母性内科を初めて受診される方も散見され、当科の存在が一般妊婦さんに浸透しつつある感触を得た年でもあった。主な仕事は**合併症妊娠・妊娠合併症**の内科的管理であるが、成育医療のセンターである当院の母性内科に求められている大きな役割として、小児期発症の疾患を成人期まで持ち越す患者、すなわち**キャリアオーバー患者の母性的ケア**があげられる。具体的に言うと小さい頃に行った外科手術が妊娠・出産に支障を与えないか、投与された薬によって生殖能力に問題はないかなどを考え妊娠・出産に向けて内科的サポートをしていくことである。今年も先天性胆道閉鎖症、先天性心疾患、てんかん、腎炎、気管支喘息などのキャリアオーバー女性の妊娠・出産にかかわった。もちろん、妊娠・出産にすぐには結びつかない場合においても今までの主治医の医師と連携して母性内科的立場に立った内科的サポートをしていくことも重要であると考える診療に当たっている。

一方、発症年齢に関係なく病気をもつ女性が妊娠する場合の内科的ケア、すなわち合併症妊娠の管理も重要な業務である。若年女性に好発する甲状腺疾患・膠原病などの自己免疫疾患、慢性腎炎、若年性高血圧症などは病気が妊娠経過・胎児発育に大きな影響をおよぼすことがあり、また妊娠・分娩がきっかけで母体の病気が悪化することもある。さらに妊娠中毒症のような合併症（妊娠合併症）が出てくると、胎児の発育に大きな影響がでる。このように「母親とこども」を健やかな状態に保持するために合併症妊娠・妊娠合併症の管理が大変重要である。

母性内科単独で完結する症例はほとんどなく、合併症妊娠は産科・不育診療科・新生児科、非妊娠時には婦人科や不妊診療科などとの連携が必要となる。また、こころの診療部に関わっていただく症例も決して少なくない。キャリアオーバー患者においてはもちろん主治医である第一・第二専門診療部の先生方からのご紹介・サポートがなければ始まらない。このようにいろいろな科の先生方、コメディカルの方々と連携して総合的な診療を展開している。

#### 2. 診療活動

##### 2.1 母性内科外来

月曜日から金曜日まで毎日行っている（月曜日は午後、火・水・木曜日は午前、金曜日は午前・午後）。

平成15年4月1日より16年3月31日まで当科外来を受診した患者は750名で、のべ3300名であった。750名の内訳を表に示す。受診理由の主なものは**合併症妊娠、妊娠合併症**である。合併症妊娠のなかではバセドウ病が最も多く、次に気管支喘息であった。妊娠合併症のうち主なものは気管支炎、高血圧、不整脈、耐糖能異常、尿所見異常であった。一方、現在は妊娠していないが体調を整えてから妊娠に望みたいという女性に対しても内科的診療を行っている。高血圧症、糖尿病など生活習慣病のある女性、関節リウマチ、全身性エリテマトーデスなどの自己免疫疾患を持つ女性をはじめ健康上の様々な不安を持つ女性が利用している。また、今年度から開設された女性総合外来の受診者で内科的精査、加療を必要とする場合も当科が担当している。

表. 外来患者の疾患分類

内分泌疾患	代謝疾患	膠原病	血液疾患	腎疾患	神経疾患	循環器疾患	呼吸器疾患	消化器疾患	その他
92	64	77	42	25	13	106	98	100	133

## 2.2 特殊外来

今年度の大きな特徴として診療科、診療部をこえて連携した形での特殊外来を二つ立ち上げに関わったことが上げられる。一つは**女性総合外来**であるが、これについては別の項で独立して扱うのでここでは省く。二つ目は**妊娠・授乳と薬相談外来**である。これは薬剤部、周産期診療部、特殊診療部、治験管理室からなる合同チームが担当している。相談の内容について収集した資料を基にカンファランスを実施し、考えを統一した上で外来担当の医師と薬剤師が外来で相談者に説明している。2003年12月にオープンしたばかりであること、ホームページに載せてないことよりまだ症例数は少ないが、今後医師会をはじめ医療機関へのPRを行うことにより相談症例の増加が見込まれる。

## 2.3 病棟

平成15年4月1日より16年3月31日までに当科に入院した患者数は約80名で入院日総数は986名であった。入院患者の主な疾患は全身性エリテマトーデス、シェーグレン症候群、抗リン脂質抗体症候群、糖尿病、高血圧症であった。産科入院の症例についても内科的問題をもつ場合には併診という形をとっているため実際はこの数字よりはるかに多くの症例の診療にあたっていたことになる。また、抗リン脂質抗体症候群の患者については不育診療科と合同で診療を行っている。

## 3. 研究会

### 3.1 妊娠と免疫研究会

妊娠と免疫の関係は大変重要であり、当院オープンと同時に上記研究会を立ち上げたが、2003年度は2004(平成16)年2月28日に順天堂大学産婦人科教室主催で開催され、当科では以下の発表を行った。

一般演題：山口晃史 妊娠に合併した血球貪食症候群の2例

特別講演：村島温子 内科医からみた合併症妊娠

## 4. 社会的活動

平成16年1月27日 和泉保健センター(杉並区和泉4-50-6)において「膠原病の治療と毎日の過ごし方」というテーマで膠原病患者、保健師対象の講演を行った(村島温子)。